

## ベトナム・ダナン産婦人科小児科病院「フィジカルアセスメント(呼吸)」研修 ～「病院内の体系的な看護師・助産師教育プログラム導入プロジェクト」～

2013年7月、第3回研修員として、看護師長・助産師長ら6名を神戸に受け入れました。第3回受入研修では、ダナン産婦人科小児科病院側の要望を踏まえ、「フィジカルアセスメント(呼吸)」に関する研修を実施しました。フィジカルアセスメントとは、問診、身体診査、検査などによって患者の身体的変化の徴候をいち早く察知し、総合的に評価することです。看護実践の場面に展開し、現場改善をより図ることが目的です。

西市民病院では、まずフィジカルアセスメントを行う目的、ポイントを押さえた上で問診、視診、触診、打診の基礎を学びました。その後、講義と演習を通じ、呼吸器系のフィジカルアセスメントに必要な基本的技法を習得しました。中央市民病院では、人工呼吸器を装着する小児患者への看護ケアを学びました。また看護大学では、研修実施計画であるアクションプランを作成し、最終日にはその発表をしました。併せて、気管支喘息の小児患者とその母親に対するケアについて講義を受け、看護師役、母親役、小児患者役の3者のロールプレイも行い理解を深めました。

10月には第5回の専門家派遣を行いました。

第5回派遣時には、ダナン産婦人科小児科病院にて第3回受入研修テーマでもあった、「フィジカルアセスメント(呼吸)」をテーマにした新人看護師研修が実施されました。日本で学んだことをベースに、ベトナムの内容も取り入れ研修内容が上手にアレンジされていました。研修は講義だけではなく、ロールプレイを加えており、研修効果を高める工夫が感じられました。講師を担当した看護師長たち自身も事前準備や勉強会等を積極的に行い、新人看護師の状況や能力をよく理解し、指導できていることがよく分かります。



<研修員のロールプレイの様子を講師(看護師長)が確認する様子>

神戸から参加した専門家から、「ロールプレイを研修員が即興でできるということは常日頃から意識ができている証拠だ。」「研修場所としてホールを使用しており工夫を感じた。」等の感想や、「フィジカルアセスメントはなぜ必要なのかという導入部分をまず新人看護師に伝えてみては。」等のコメントを行いました。

今後は、平成25年度中に、12月に助産師長クラスの研修員を6名神戸に受け入れ、技術的な研修を実施します。平成26年度も年2回の研修員受入と3回の専門家派遣を予定しています。